

油津の港物語～堀川運河～

宮崎県・日南市



本施設は広渡川河口と油津港を結ぶ全長約900m、幅22m～36mの人工運河であり、江戸時代（1686年）に当時の飩肥藩藩主伊東祐実の命により開削され、藩財政を支える貴重な資源であった飩肥杉を、広渡川から油津港に搬入するために利用されていた。

その後、飩肥杉の生産量の増加に伴い昭和50年代に至るまで、堀川運河は貯木場として利用されるとともに、現在も小型船の避難場所として活用されており、戦前に東洋一のマグロ基地として油津港が繁栄した際も、その繁栄に大きく寄与してきたところである。

このように、堀川運河は油津港及び油津地区の繁栄に密接に関係しており、地元漁民の誇りとして、開削以降現在まで適切に保存・管理されている。

堀川運河を通して搬出されてきた飩肥杉は弁甲材といわれ、浮力があって曲げに強く、油分も多いため、漁船の造船材として広く使用されていた。

堀川運河関連施設に「堀川運河護岸」、「広渡川石積堤」、「堀川橋」、「花峯橋」の4点の登録文化財がある。

TOPICS

- ・油津港まつり 7月下旬開催
- ・堀川まつり 11月中旬開催
- ・特産品：焼酎、魚うどん

お問い合わせ先

宮崎県油津港湾事務所
TEL / 0987-23-3125

【交通】

徒歩 / JR油津駅から10分

